



竹林整備&バーベキュー

12月1日（土）、本学の敷地内にある松木日向緑地にて、竹林整備の活動と竹を活用して作った竹炭を使ったバーベキュー（以下、BBQ）を行いました。松木日向緑地プログラムからは、3年目（リーダー）の学生が1人、2年目（サポーター）の学生が1人、1年目の学生が7人の合計9人が参加しました。

・活動内容

まずは、松木日向緑地内にある加藤英寿先生（本学理学部生命科学科 助教）の研究・調査エリアにて、先生から直接、松木日向緑地の現状についてお話をお聞きました。管理されている竹には、色のついたテープが巻かれており、その竹がいつ（何年に）生えたのかが分かるようになっています。今年生えた竹も4mを超す高さになっており、学生たちは竹が伸びるスピードの速さに驚いていました。

さらに、手入れをしているエリアとあえて手を加えていないエリアを見比べると、陽の光による明るさや生息している植物の種類数が圧倒的に違うことが分かりました。手を加えていないエリアでは、竹が無造作に生い茂り、他の植物の姿をなかなか見つけることができません。節がきれいな今年の竹も多く生えていることから分かる通り、「竹林の急速な拡大による生態系への影響」といった緑地が抱える問題は着実に進行しています。学生たちは、その現実を目の当たりにし、問題の大きさを改めて実感していました。

次に、球技場や弓道場の裏の緑地で、落ち葉を撒きました。以前の活動でも落ち葉撒きを行いました。この活動には、来春生えてくるであろう筍のために、地面に栄養を与えたり、地面の湿度を保ったりする等の目的があります。

さらに、実はもう一つ重要な目的があります。今回大量に撒いた落ち葉は、「どこにあった落ち葉なのか」というと、もちろん首都大の敷地内から集められた落ち葉です。これまで首都大では、敷地内で集めた落ち葉を業者に委託し、焼却処分を行っていました。しかし、この方法では、腐葉土として活用できる資源を失ってしまうことや処分自体にお金がかかってしまう等のムダが生じてしまいます。このムダをなくすために、現在では、加藤先生や地域団体であるひなた緑地遊学会を中心に、「落ち葉をゴミとして処分するの

ではなく、緑地内で撒くことにより、緑地保全に活用」しています。学内で出たものを学内で消費するといった循環（サイクル）を実現することで、環境保全の質をさらに高めているのです。落ち葉でいっぱいになった100以上の袋を運んだり、その袋に入った落ち葉を撒いたりするのはとても大変でしたが、学生たちは一生懸命に活動していました。

落ち葉撒きが終わった後は、桜などの樹木の周りに密生している竹を伐採しました。今回も初めて竹を切るメンバーがいましたが、いつものようにひなた緑地遊学会の方にサポートしていただきながら、無事に初の伐採体験を終えることができました。

最後は、ひなた緑地遊学会の方との交流も兼ねてBBQを行いました。このBBQは、以前の活動でつくった竹炭を使って行いました。伐採した竹を活用することも大切な取組の一つです。BBQでは、お肉だけでなく、温室の裏で栽培しているヒラタケを焼いたり、生地を竹に巻き、炭火で焼いてパンを作ったりしました。

～参加した学生の感想～

・「初めて竹林管理の作業をしたのですが、ただ落ち葉を拾ったり、竹を伐採したりする作業を行うのではなく、何のために行っているのか、それによって竹林にどのような変化があるのかについて知ることができ、勉強になりました。」

・「改めて活動の意味や理由を説明していただき、目的意識をもって活動に臨むことができました。BBQでは、先輩や遊学会の方々とはたくさん交流できました。」

・「今日は人生で一番多く、竹を切りました。一人で3本一気に切ったのは初めてで、意外と疲れました。」

竹林整備で伐採した竹を水鉄砲の材料にしたり、これまでの活動でつくった竹炭を使ってBBQをしたりと、一つの活動が、また新たな活動につながっています。さらに、学生たちが活動を通して多くの方々と交流し、人と人とのつながりをどんどん広げていっています。

今日の活動もまた、新たな活動に結びついていくはずです。

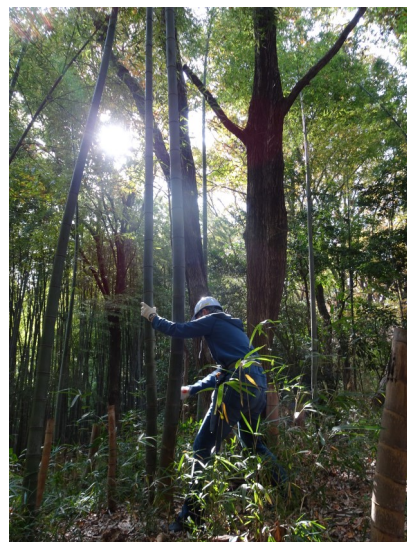
地域ボランティアプログラム①
松木日向緑地プログラム

竹林整備 & BBQ 報告

2018/12/01



加藤先生から話を聞く学生の様子



樹木の周りの竹を伐採している様子



竹炭を使ったBBQの様子